
エリザベス・人形物語

ぐうりんぼ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エリザベス・人形物語

【Nコード】

N8518P

【作者名】

ぐつりんぼ

【あらすじ】

極寒のフリーラムランドで暮らすマルセル・ハーレス。

1人ぼっちの彼女にとって人形エリザベスは、家族同様の良きパートナーである。

そんなマルセルの所に可愛い子供人形たちがやって来た。

念願の可愛い人形パートナーにエリザベスは大喜び。

以来、賑やかで楽しい暮らしが続く。

エリザベスは子供人形たちの絆を強めるが、マルセルとの絆は段々と弱めて行く。

1年後、エリザベスの変貌ぶりにマルセルの妹グロリアス激怒。

エリザベスや子供人形たちへの容赦ない仕打ちを始める。

1人ぼっちのパートナー（前書き）

フリーラムランド…

動く人形たちが人間と共存する国である。

1人ぼっちのパートナー

フリーラムランド…

寒いカルダス地方に位置する自然豊かな国であり、色んな種族がそれぞれの地域で平和に暮らす国でもある。

この国では、一部の住人たちが人形をパートナーとして養っている。

「人形のパートナー？」

恐らく、こんな疑問を持つに違いない。

実は…

この国では自ら生命や意思を持ち、動いたり喋ったり食べたり排泄したりする生きた人形たち…人形生物が存在するのだ。

大小種類様々で、人形たちはそれぞれの家庭で大事にされていた。

エリザベスもその1体で、女性資産家マルセル・ハーレスの屋敷で暮らしていた。

等身大であり…

小さな顔…

カールのロングの金髪…

パッチリした目…

キリリと引き締まった口元…

スラリとした体格…

その美しい姿で数多くの愛好者たちを魅了していた。

1人暮らしのマルセルにとってはエリザベスは唯一の家族であり、心より愛するパートナーでもある。

エリザベスにとっては人形冥利に尽きる事だろう。

夢のような贅沢三昧な生活が出来るのだ。

自分専用の広い部屋で、食べて遊んで暮らせる。

こんなサイコーなお嬢様暮らしはないだろう。

しかし、これだけ裕福なエリザベスも心の隙間を満たされないでいた、

理由は明白だ。

エリザベスは人形としては、いつも1人ぼっち。

人形仲間がなくて寂しい思いをしているのだ。

夕食の後片付けを済ませたマルセルは、エリザベスの部屋でゆっくりと語り合った。

愛する人形パートナーの心の隙間を知るマルセルは、こんな提案をした。

「人形同士でのお見合いなんて、どう？ アナタがその気なら、ステキな彼氏を探してあげてもいいから」

マルセルの提案は、エリザベスにとって嬉しい事だった。

が…

予想外の返事をマルセルは耳にした。

「男ナンテ、イラナイワ。オ見合ナンテ、結構」

「彼氏、欲しくないの？」

「欲シクハ、ナイワ」

珍しい。

エリザベスは人間で言えば、二十歳前後の若い女性に当たる。

人間と同じように彼氏の1人ぐらいは欲しがるものだ。

現にだ。

知り合いの所で暮らすローズマリ人形なんか、ボーイフレンドが3体人もいるのだ。

だからエリザベスだって…

まあ、あれこれ推理したって分かりっこない。

理由を尋ねてみる。

「どうして、いないの？」

「男ナンテ、ウットウシイ」

「うっとうしい？」

「ソレヨリモ、私ハ…」

エリザベスは手に持っていた1冊の雑誌を開いて、或るページをマルセルに見せた。

マルセルが目にしたのはページに載っている商品写真である。

「子供人形？」

写真には、オシャレに
着飾った小さくて可愛い女の子人形が写っていた。

エリザベスはウツトリとした眼差しで、自らの希望を口にする。

「私二良ク似タ可愛イ女ノ子、沢山欲シイノ」

ジッと写真を見入るマルセル。

「ふーん、女の子人形ね」

人形生物は、体を作って命を吹き込む事で新しい人形が出来上がる。

結婚して性的関係を持たなくても、子供人形は欲しくなったらいつでも出来るのだ。

子供たちがやって来た

それから1ヶ月後…

エリザベスの元に待望の子供人形がセットで送り届けられた。

送り主は発注先の幸せ人形工房である。

配達便のトナカイロバ車に乗せられて、大きな木製のケース入りで荷物は到着した。

「私ダケノ、可愛イ子供たち、早く見タイ」

胸をワクワクのエリザベス。

マルセルはケースの外蓋を開け、手元のスイッチを押した。

オルゴール調の可愛い音楽が流れ、中蓋がゆっくりと開いた。

紫色のカーテンを開けると…

「まあ、可愛いわネエ！」

「ウワァ！」

マルセルもエリザベスも目を輝かせた。

ケースの中はちょっとした小部屋になっていた。

30体の小さな人形たちがジッと、こちらに視線を向ける。

身長は約15?ぐらい。

殆どがエリザベスを幼くしたような愛らしい女の子ばかりで…

真っ赤な可愛いドレス衣装と、可愛い赤の帽子を被っている。

パッチリとした大きくつぶらな瞳が、凄く印象的だ。

「エリザベス、自分がママだって事をアピールしなさい」

マルセルに促されて、エリザベスは両手を大きく広げた。

「私ノ、可愛イ、子供たち」と、優しく声をかける。

子供人形たちの視線が一斉に、エリザベスに集中した。

「…」

大きな目をパチクリさせながら、ジッとエリザベスを見つめる。

「私ハ、ママ。私ハ、ママ。ママ、ママ」

「…」

「ママ、ママ」

しばらくすると…

子供人形たちの目の色が変わって来た。が

エリザベスを母親だと認識し始めたのか？

パーッと明るい表情を見せながら、両手を高く上げてピョンピョンと跳びはねる。

「ミヤミヤー！ ミヤミヤー！」

ミヤミヤとは、子供人形独特の幼児言葉でママと言う意味である。

それにしても…

子供人形たちの声は、高くて可愛いトーンをしている。

「初メマシテ、私ガ、ママヨ」

子供人形と初めて意思疎通が出来て、エリザベスは笑顔である。

「ミヤミヤー！ ミヤミヤー！」

「可愛い！ 可愛い！」

エリザベス・ママは子供人形たちをしっかりと抱擁し始める。

子供人形たちは初めて、ママの温もりと愛情を感じたようだ。

マルセルが戻って来た。

「エリザベス、準備が出来たわ。子供たちを部屋に連れて行きなさい」

マルセルに促されて、エリザベスは子供たちをケースから出した。

「サア、みんな。ママト、オ部屋ニ、行キマシヨウ」

「ミャーイ！」

「みんな、並ンデ、行進ヨ」

「ミャーイ！」

子供人形たちは一列縦隊に並ぶと、元氣良く行進しながら人形部屋に入って行った。

エリザベスもそのまま中へ入って行き、出入口の扉をボタンと閉めた。は

「エリザベス？」

ココでマルセルはハツとなった。

エリザベスが返事をしなかったのだ。

どんな事でも必ず返事していたハズなのである。

マルセルは内心、或る種の不安と寂しさを抱いた。

ため息を付き、空になったケースを移動し始める。

意外と重いケースだけど、キャスター付きだから持ち運びには苦勞しない。

中は空のハズである。

だが実際には…

子供人形が1体、中でウロウロしている。

マルセルは全く気付かない。

そのコだけ、置いてきぼりを喰らったのだ。

ケースは物置に入れられた。

真っ暗闇状態になって、そのコは強い孤独感に苛まれちゃった。

「ミヤア、ミヤア」

涙をボロボロ流すそのコ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8518p/>

エリザベス・人形物語

2011年1月9日05時11分発行